

## 4. 肉用子牛の予防衛生に係る取り組み（第1報）

玖珠家畜保健衛生所・大分家畜保健衛生所<sup>1)</sup>

○（病鑑）利光 昭彦・（病鑑）河野 泰三・平川 素子  
（病鑑）川部 太一<sup>1)</sup>・中西 年治

近年、大分県の肉用子牛の死産率及び事故率は他県に比較して高い割合となっている。当家保管内の肉用子牛病傷事故件数は2009年度で1268件、2010年度で856件と減少しているが、病類割合では呼吸器病と消化器病が全体の75%以上を占め、主な原因となっている。

2010年度の当業績発表会において「玖珠家畜市場における子牛の市場性向上に係る取り組みについて」報告した。更なる市場性向上のためには肉用子牛の事故率を低減させ、発育を向上することも必要な対策として取り立たされた。事故率の低減策としては飼養環境やワクチンプログラム等の改善が行われており、今回子牛の免疫強化として市販の初乳製剤を用いた受動免疫の強化の取り組みを始めたので、その概要を報告する。

### 【取り組み内容】

- 1 現地実証：繁殖経営2農場（A、B農場）。A農場は母牛30頭、労働力は経営者のみ、子牛には消化器病が頻繁に発生、対応に苦慮、2010年10月から出生子牛に初乳製剤の投与を開始。日増体量(DG)、診療回数等を調査した。B農場は母牛105頭、親子で経営、哺乳ロボットを使用、母子分離後の子牛には呼吸器病が蔓延しており、2010年7、8月に3頭死亡。病性鑑定により「牛パスツレラ症」と診断。2010年11月から初乳製剤の投与を開始、併せて飼養環境やワクチンプログラム等の改善も指導。同じく経過を調査した。
- 2 アンケート：A、B農場を含め初乳製剤を使い始めた10農場に対して実施。
- 3 普及：初乳製剤を補助対象とした県単独事業である肉用牛子牛衛生管理向上対策事業の生産者への周知。

### 【結果及び今後の取り組み】

- 1 A農場の結果について、消化器病の発生は減少し発育が良好となり、獣医師の診療は2011年4月から8月まで1頭の6回であり、死亡する子牛は無かった。2010年同期には6頭の21回あり、投与前と比較すると診療費は105千円の減少となった。市場出荷子牛のDGは投与前と比較して雌子牛で0.05の増加。B農場では、獣医師の診療は2011年4月から8月まで36頭の159回であり、2010年同期より2頭増加したものの、死亡する子牛は無かった。市場出荷子牛のDGは投与前と比較して雌子牛で0.05以上増加。
- 2 アンケート調査結果について、初乳製剤を使用して良かったかの問いに対して8戸が良かった、2戸が変化なしの回答であった。
- 3 A、B農場の現地実証及びアンケート結果から初乳製剤の投与により疾病の減少と軽症化が見られ、結果として発育が向上した。呼吸器病に対しては継続した調査検討が必要。今後は地域やJA単位で開催される研修会等で取り組み内容と期待できる効果について説明を行い、補助事業を活用して普及を図りたい。